

フードバンク もっと知って

「飽食の時代」が長く続き、毎日、多種多様な食品が大量に生産されている。また、同時に、食べられる状態の食品が大量に廃棄される実態もある。その裏側で、現状あまり認識されていないが、国内でもかなりの人が経済的な理由で日々の食事に不自由を感じており、今日、明日の食事に事欠く人も少なくない。

このような中、規格外や賞味期限が近いなどの理由で廃棄対象になった食品を譲り受け、食べ物に困っている人に無償で提供する「フードバンク」という活動が注目されている。

農林水産省によると、県内では、特定非営利活動法人フードバンク三重などの4団体が、福祉施設や個人などへの支援を目的に活動を行っている。また、県内にある社会福祉協議会をはじめとする社会福祉法人の半数超が協働し、フードバンク団体の認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋が詰め合わせた食品パックを、市町社会福祉協議会経由で生活困窮者に届ける事業が2016年から実施されている。

市町社会福祉協議会の中には、独自の活動を行うところもある。例えば、鈴鹿市社会福祉協議会は、生活協同組合コープみえの呼びかけで同組合から譲り受けた食品の取り扱いを開始。その後、趣旨に賛同した企業からの提供を受けるなど、活動の輪が広がっている。

このように、県内でも広がりがみられるが、一方で課題も多い。運営は寄付金に支えられていることから予算に制限があり、食品提供も一部の企業に限られていることから食品が不足することがあり、十分な活動ができていないのが実情だ。

日本でのフードバンクの歴史は浅く、用語自体を知らない人も多い。普及のためには認知度向上が欠かせない。

(コンサルティング事業部 PPP/PFI グループ 主任研究員 川北 晃二)